

次世代のサステナビリティ・ マインドの涵養に向けて 研究機関が果たす役割

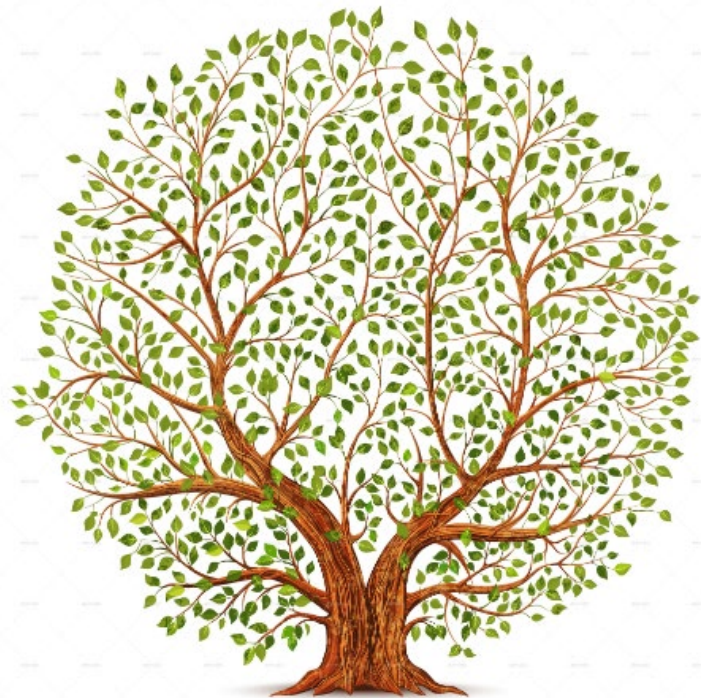
(公財) 地球環境戦略研究機関

福田 美紀、パベル ヘイチク、アノダリ バトサイハン、
マシュー ヘンジェスボー



IGES
Institute for Global
Environmental Strategies

本日の発表内容



- 研究背景
 - SDGsの進捗とESDの位置づけ
- 研究結果の概要
- 予備的考察と今後に向けて

“We are on track to achieve SDGs by 2065”？*

- アジェンダ2030／パリ協定のいずれも達成する軌道には乗っていない
- 「SDGs報告2025」：2030年までの中間地点を迎えた現在、達成への軌道に乗っているのはターゲットのうち約18%に留まる
- アジア太平洋地域では他地域に比べて厳しい達成度とも

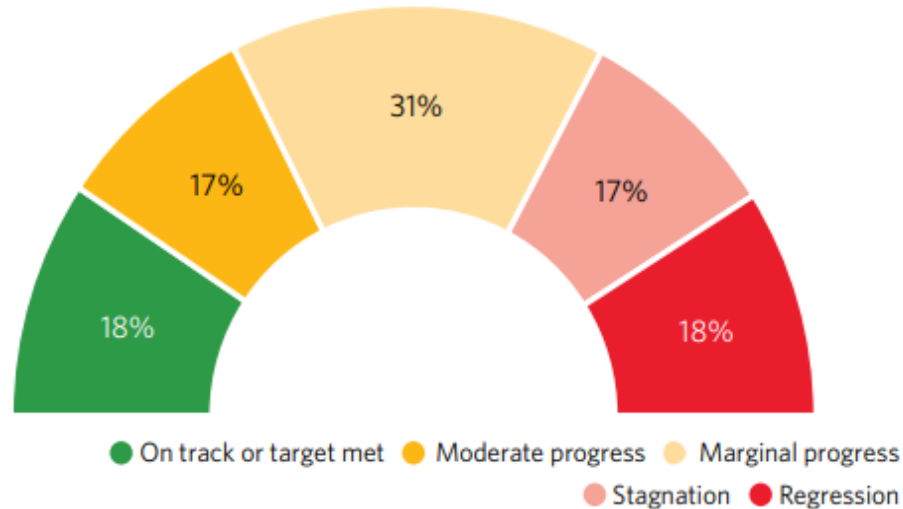


*UNESCAP, “Asia and the Pacific SDGs Progress Report 2025”

<https://www.unescap.org/kp/2022/asia-and-pacific-sdg-progress-report-2022>

SDGsの進捗状況(2025)

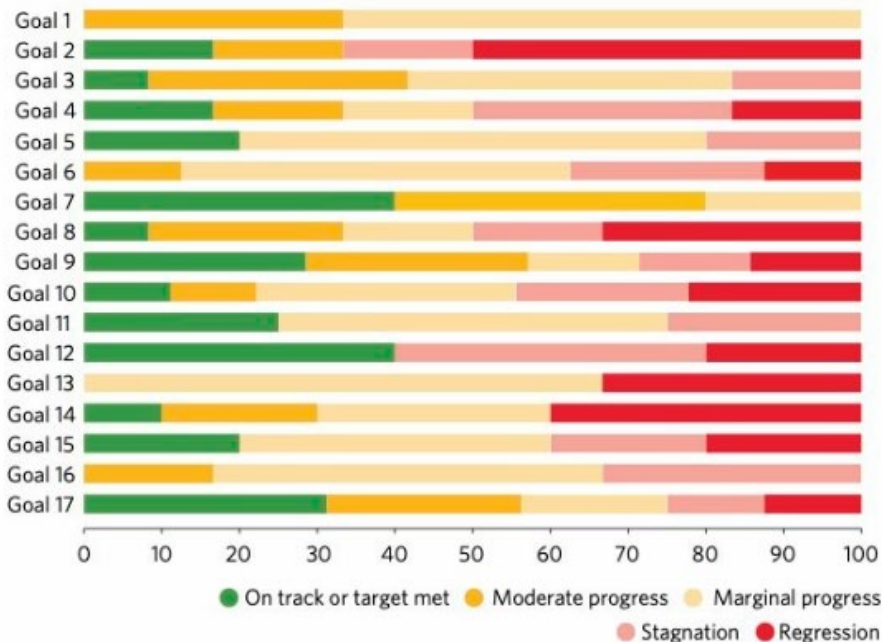
Overall progress across targets based on 2015–2025 global aggregate data



UNDESA (2025) “SDGs Report 2025”

<https://digitallibrary.un.org/record/4085123?v=pdf>

Progress assessment for the 17 Goals based on assessed targets, by Goal
(percentage)

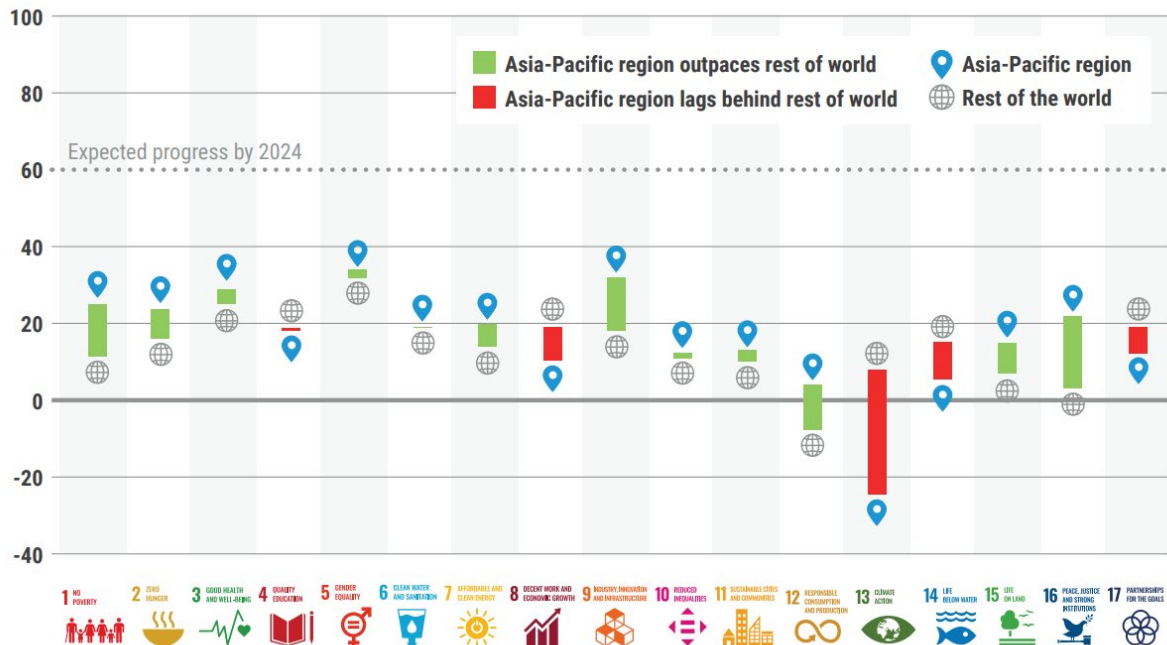


- 17のゴールの進捗状況を目標ごとに評価
- 順調に進んでいる「緑」よりもピンクの「停滞」や赤の「後退」の方が目立つ
- 特に環境分野のゴール(6, 13, 14, 15)の進捗が芳しくない

UNDESA (2025) “SDGs Report 2025”
<https://digitallibrary.un.org/record/4085123?v=pdf>

アジア太平洋地域におけるSDGsの進捗状況

Progress (percentage)



**ASIA AND THE PACIFIC
SDG PROGRESS REPORT**
Engaging communities to close the evidence gap

2025



UN Sustainable Development Goals

ESCAP

UNESCAP, “Asia and the Pacific SDGs Progress Report 2025”

<https://unescap.org/kp/2025/asia-and-pacific-sdg-progress-report-2025>

SDGsの達成に向けて：フォローアップ&レビュー

- 進捗を評価・軌道修正を行うためのフォローアップとレビュー
→ 持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム (HLPF)
- SDGsのフォローアップとレビューを目的として国連で毎年7月に開催
- 2025年は、日本を含む35カ国がSDGsの進捗を報告する自発的国家レビュー (VNR) を提出・発表



「HLPF2025日本VNR発表の様子」出典：地球規模課題審議官組織

日本政府のSDGs推進におけるESDの位置づけ



- ◆ 2025年7月、日本政府は、2017年、2021年に続き、3回目となるVNRを国連に提出
- ◆ 2024年4月から、SDGs推進円卓会議民間構成員との非公式意見交換を開始、10月の推進円卓会議において、内容構成等を検討
- ◆ 2025年3月からパブリックコメント及びステークホルダー会議を開催
- ◆ 「若い世代の参画」を意識したプロセスに

日本政府のSDGs推進におけるESDの位置づけ



- ◆ 「ESDはSDGs全ての目標に寄与する重要施策の一つ」一国を挙げての推進が報告
 - ◆ 現行学習指導要領「**持続可能な社会の創り手**」の言及→各学校で推進される取組
 - ◆ 各地の**ESD活動支援センター**のネットワークや**ユネスコスクール**を活用した多様な主体の分野横断的な協働・連携
 - ◆ 教職員研修や体験活動の推進・情報発信、表彰制度による取組の奨励など

本研究の背景（まとめ）

研究の背景

- 日本のESD成果検証は、量的データを用いた客観的な評価が不足
- 現状は、ユネスコスクールの活動調査や個別の学校・教職員による経験的報告が中心（市瀬、2019など）
- VNRでも、ESDに関する記載は断片的で、全体的な進捗や課題の分析が不十分



市瀬智紀（2019）「学校における ESD の教育実践を教員はどう認識しているのか-質問紙調査結果の一考察-」『ESD 研究』第2号，4-12頁。

本研究の目的・方法

目的

- 研究機関がESD推進にどのように貢献できるかを追求するため、学校教育現場の現状と課題を客観的に把握する

方法

- 調査方法：管理職・教職員を対象としたアンケートおよびインタビュー調査
- アンケート調査の結果を主に発表

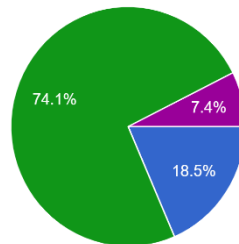


調査の結果概要

- 回答数:約60件(教職員27名、管理職34名)
- 北海道内の高等学校からの回答が多数
- ESD活動支援センター(北海道・関東・四国)、北海道教育委員会からのご協力が影響か

1. 学校種別：
27 responses

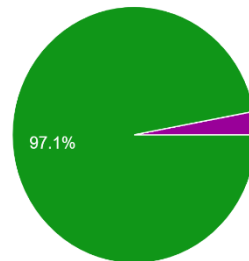
教職員



- 小学校
- 中学校
- 義務教育学校 (小中一貫教育)
- 高等学校
- 中等教育学校 (中高一貫教育)

1. 学校種別：
34 responses

管理職

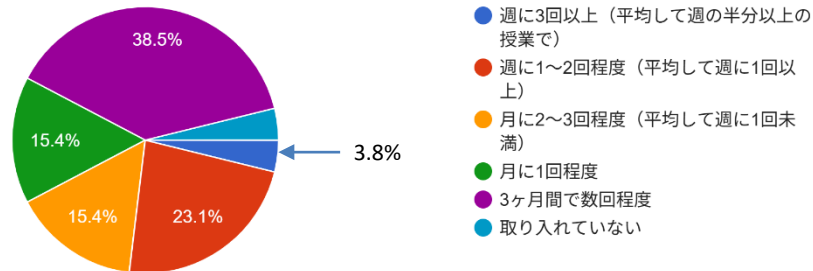


- 小学校
- 中学校
- 義務教育学校 (小中一貫教育)
- 高等学校
- 中等教育学校 (中高一貫教育)

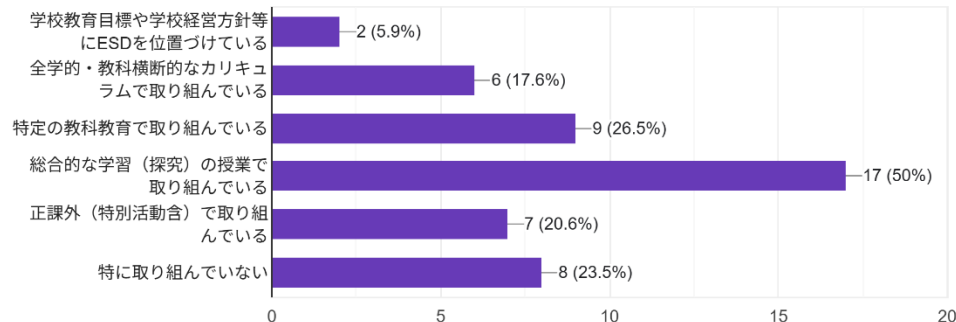
調査の結果概要

- 比較的ESDに取り組んでいる（週1回以上）教職員は26.9%
- 23.5%の学校がESDを特には実施していない
- 教員の業務負担が最大の課題
- 地域連携、教員間ピアラーニングや実践的な教材のニーズが顕著

過去3ヶ月間で、サステナビリティに関するトピックを授業に取り入れた頻度はどのくらいですか？
26 responses



貴校におけるESDや持続可能性（サステナビリティ）に取り組んでいますか？（該当するものすべてを選択）
34 responses

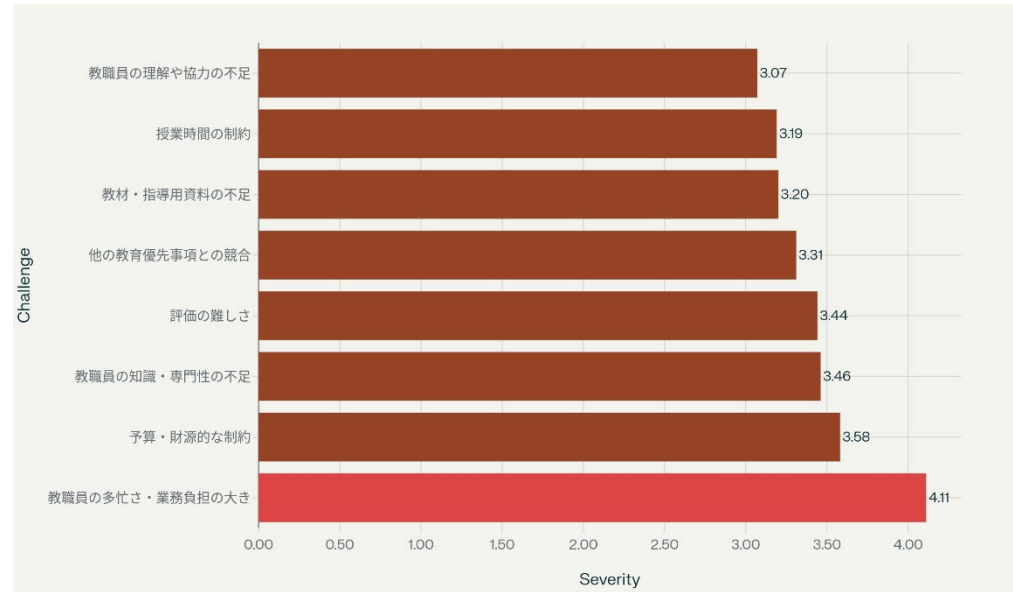


直面する課題

1. 教職員の多忙さ・業務負担
2. 教職員の知識・専門性の不足
3. 【教職員】評価方法の難しさ
3. 【管理職】予算・財源の制約

※ ESD未実施校の理由：
他の教育優先事項との競合

学校がESD実施にあたり、直面している課題上位8項目



実践される主なESDテーマ

1. 環境汚染

(大気・海洋・水質・土壌・公害等)

2. 防災・減災

3. 気候変動

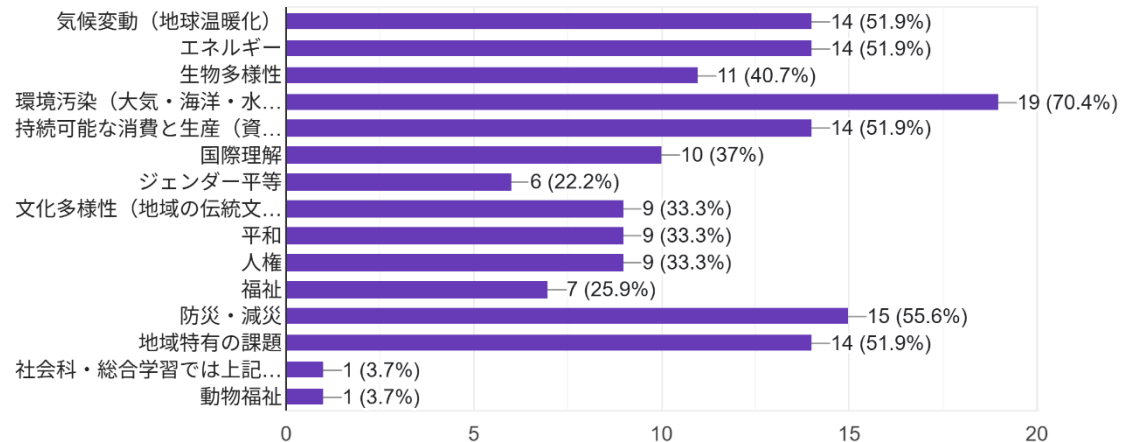
エネルギー問題

持続可能な消費と生産

地域特有の課題

10. 授業で取り上げているテーマはどのようなものですか？（該当するものすべてを選択）

27 responses



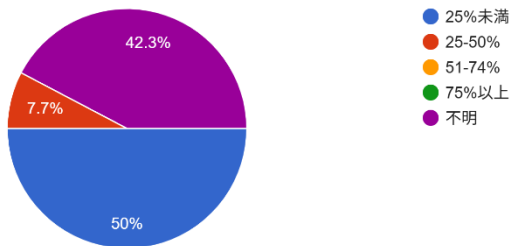
環境系のテーマが強く、ジェンダー平等や人権等の社会課題への注目が十分とは言えない。

教職員が直面する知識・リソース・研修機会不足

20.

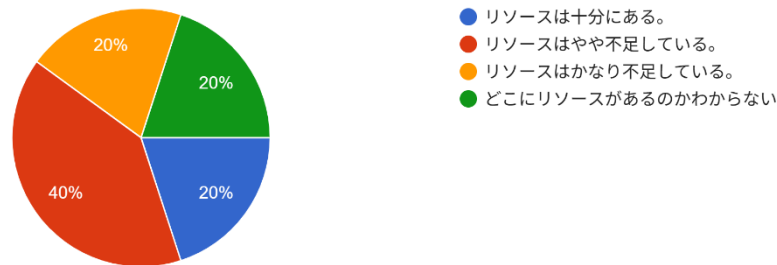
過去2年間（2023-2025年度）に、貴校の教職...む）を受けた方の割合はおおよそどのくらいですか？

26 responses



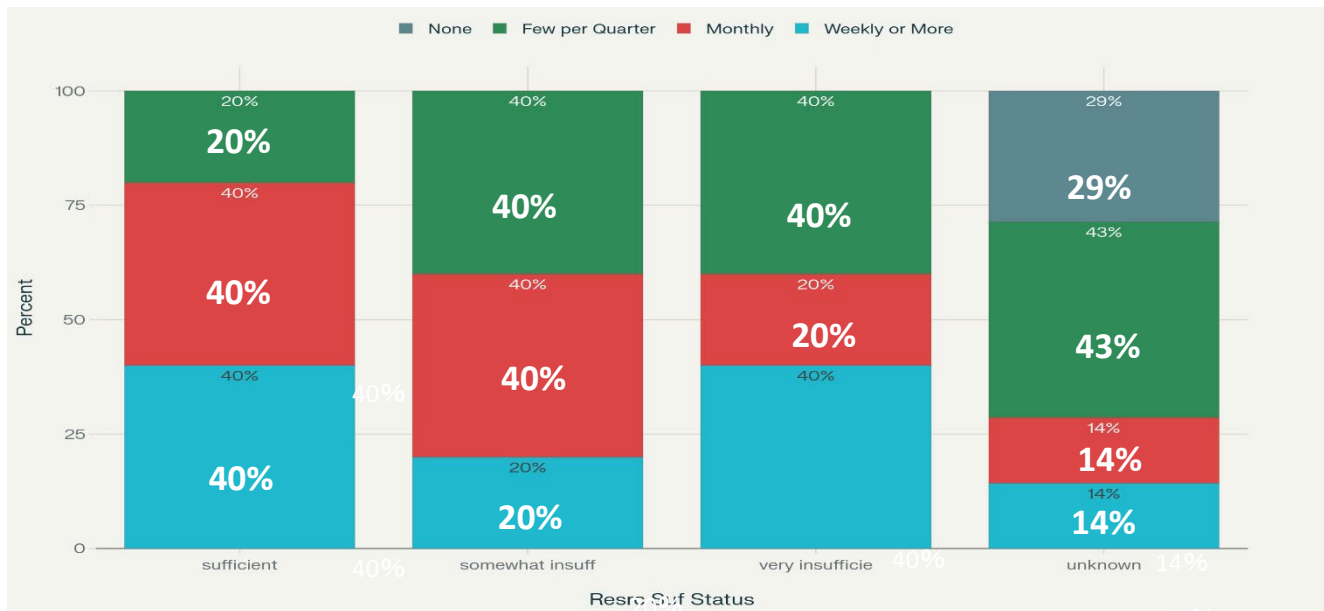
18. ESDに取り組むにあたって、参考となるリソースは十分と感じますか？

25 responses



**ESDに関する研修を受けた教職員（管理職が把握しているもの）は少数
リソースが十分と回答した教員の割合は、約20%に留まる**

入手できるリソースが多いほど、ESD実施率が高い傾向



取り組んでいない

3か月で数回

毎月

毎週

リソース： 十分

やや不足

かなり不足

わからない

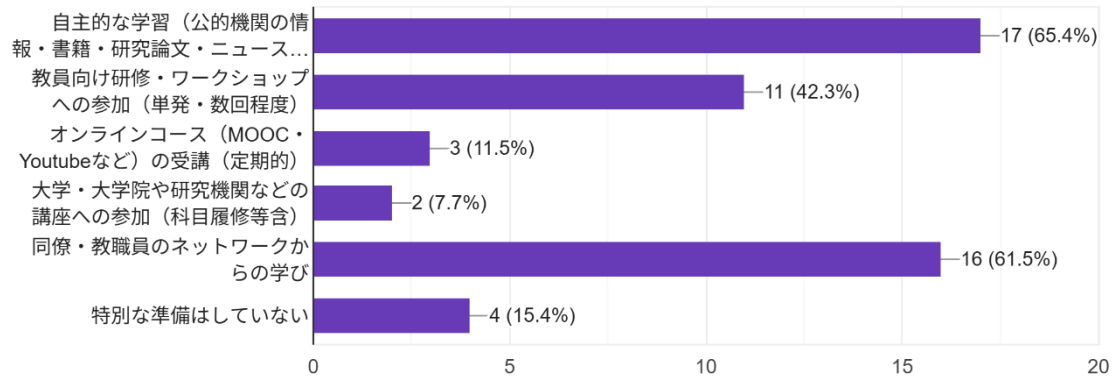
教職員が活用するリソースの提供源

1. 公的機関の情報、書籍、論文、ニュースなど自主的学習
2. 同僚・教職員ネットワークからの学び
3. 教員向け研修・ワークショップへの参加（単発・数回程度）

19.

ESDに取り組むにあたり、関連テーマについてと...識を得ていますか？（該当するものすべてを選択）

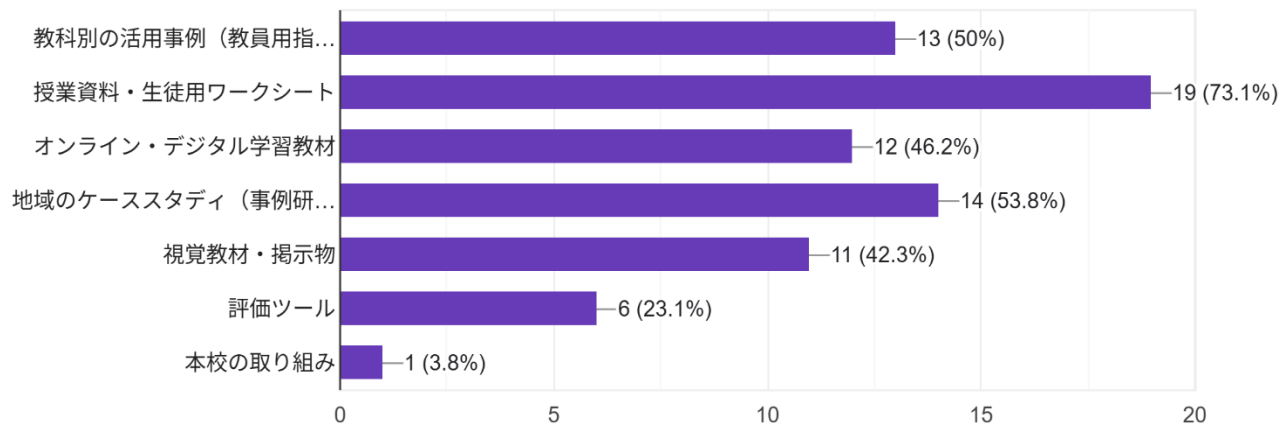
26 responses



教職員が必要とする支援

25. 日々のESDの授業実践にあれば望ましい教材・資料は以下のどれですか？
(該当するものすべてを選択)

26 responses



1. 授業用資料・生徒用ワークシート
2. 地域の事例研究
3. 各教科での活用事例・指導案

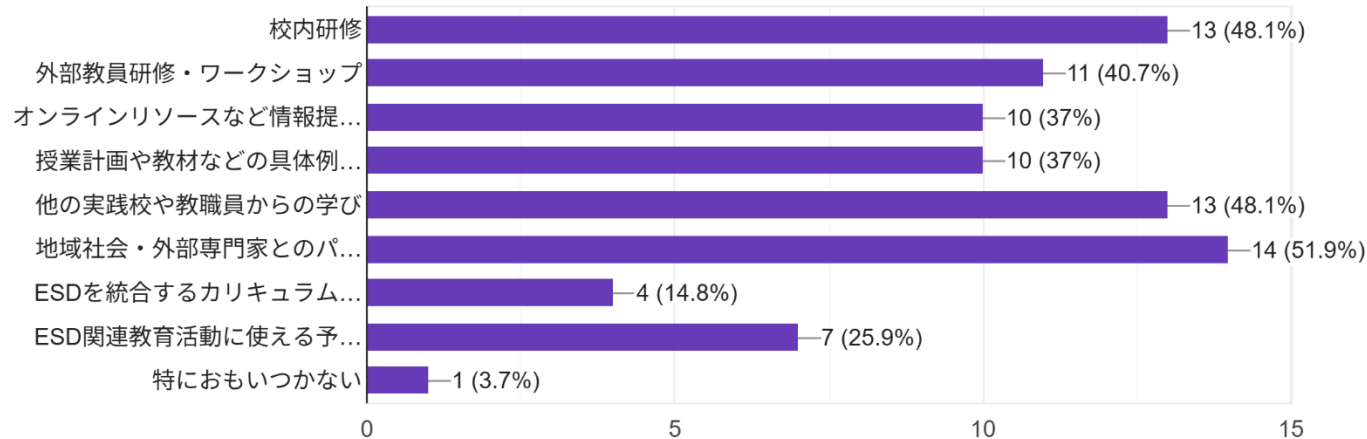
日々の授業をこなすことが最優先。研修も、単発／オンラインなどが有効と認識か。

管理職が有効と考える支援

22. 貴校でさらにESDを推進する際、有益だと思われる支援は何ですか？（上位3つまで選択）

27 responses

1. 地域社会・外部
専門家との連携
2. 校内研修
3. 他の実践校や
教職員の交流・
学び合い



→教職員個々人のレベルを超えた、組織・制度的な課題の把握・改善の必要性

予備的考察と今後に向けて

- 今回の調査結果は、地域・学校種の偏りもあることに留意
→地域・学校によって置かれた状況（教育的優先事項、予算等）
の差異への認識
- 地域・実践重視（Think Globally, Act Locally）
 - 実践例・地域事例の共有は豊富
 - グローバルで行われている議論とのギャップ
- 環境課題への注目が高いが、単発での実施が多い
→昨今グローバルな議論では、他の環境社会・経済課題との
相関関係（シナジー・トレードオフ／ネクサス）への注目も高まる
→e.g. 人権・ジェンダー問題などとの関連も



予備的考察と今後に向けて

- 現場実践は豊富だが、**国・グローバルレベルの政策・制度**に対する分析の視点が弱いのではないか
- グローバルレベルでの「**若者（ユース）参画**」への注目の高さ
教科・特定のテーマに落とし込まれた単発の実践で
「持続可能な社会の担い手」を育てられるのか
- 気候変動・環境課題に関心のあるユースの意識・行動力とのギャップ
→社会変容を生む市民の社会参画のための教育・エンパワーメントへの視座
- 研究機関として、1) グローバルな最新動向・情報の提供、2) 進捗状況の**フォローアップ・レビュー**に基づく制度改善への提言につなげるなどの貢献も有益か



主な引用・参考文献

- ・ 市瀬智紀(2019)「学校におけるESDの教育実践を教員はどう認識しているのか-質問紙調査結果の一考察-」『ESD研究』第2号, 4-12。
- ・ 谷田川ルミ、栗島英明(2022)「学校教育におけるESDの実施状況と教員の意識——中学校, 高等学校に対する全国調査の結果から」『公共研究』, 18(1), 81-99。
- ・ 地球環境戦略研究機関(2025)「持続可能な開発目標(SDGs)に関する自発的国家レビューに関する意見」DOI: 10.57405/iges-14289
- ・ 外務省(2025)『持続可能な開発目標(SDGs)に関する自発的国家レビュー(VNR)2025』。
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/vnr2025_00_full.pdf (Accessed August 22, 2025)
- ・ Fukuda, Miki (2025) “Comparing Youth Participation in SDG Processes: An Assessment of High-Performing Countries in Europe and Asia.” DOI: 10.57405/iges-14297.
- ・ UNDESA (2025) “SDGs Report 2025.”
<https://digitallibrary.un.org/record/4085123?v=pdf> (Accessed August 22, 2025)
- ・ UNESCAP. “Asia and the Pacific SDGs Progress Report 2025.”
<https://unescap.org/kp/2025/asia-and-pacific-sdg-progress-report-2025> (Accessed August 22, 2025)

謝辞：北海道・関東・四国ESD活動支援センターの皆様、
アンケート、インタビューにお答えくださった先生方

